



神谷 直子 議員

認知症施策の 推進について

問 大府市で、認知症で徘徊中に事故があった。大府市は、条例と共に損害賠償の救済制度を設けた。高浜市が認知症の方の損害賠償制度を定める場合、条例制定が必須なのか？

答 条例がなくても、市の事業として認知症の方の損害賠償制度を設けることは可能です。

問 認知症の方にも住みやすいまちを目指して条例制定を考える場合、どのような位置づけか？ 条例と制度制定に向けて進めていきたい。

答 現在、介護保険・介護予防の総合的な実施及び推進に関する条例、居住福祉のまちづくり条例と2つの条例があり、市が取り組んでいる認知症施策を体系化し、総合的に推進していく条例を加えて、3つの柱で進めたい。

学校教育現場における カラーユニバーサルデザインについて



幸前 信雄 議員

「アクションプラン」 について

問 4月に配布された資料と、10月に配布された資料の当初予算額が違う理由は。

答 夏に実施している「サマーレビューシート」と、「アクションプランの上半

期振り返りと今後のアクションシート」に重複する作業があり、事務改善の一環で作業の見直しを実施したところ、最新の予算現額の入力に対し、表記を当初予算とした誤りでした。後日再配布させていただいた資料は、当初予算で統一し、修正させていただいた。

問 高浜小学校整備事業計画で、平成31年度見込予算額が665万円ほど増額となった理由は。

答 6月定例会で可決いただいた、起債できない経費約9,300万円を事業者を立て替えていただき、約15年の分割払いで支払いの平準化を図った。

問 色覚特性（以前は色盲、色弱ともいわれた。）について、どのような認識か？

答 学校には、いろいろな特性を持つ児童生徒がいる。教員は教室内に一定の特性を持つ者を意識し、共通理解を図り、全てが「わかる・できる」といった授業づくり、安心して過ごせる環境づくりを学校教育全般でしている。

問 工夫次第で、誰にでもわかりやすい表示にできる。これをカラーユニバーサルデザインという。色覚対応チョークが販売されている。板書の対応についてはどのようなか？

答 市内の一部の学校では、色覚対応チョークを使用している。赤で文字を書くことを避け、下線や囲み枠等に使用するよう配慮している。

問 教科書などはCUDマーク（カラーユニバーサルデザイン対応）がついているが、副教材などはどうか？ 障がいの大小に関わらず、全ての特性において、寄り添える学校であることを要望する。

答 学校で使用している教科書は、いかなる色覚特性を持つ子にも見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮したものを使用している。副教材についても同じです。

問 平準化したことの効果は。

答 自治体の借り入れは、施設建設などに限られており、公共施設総合管理計画を見据え、基金残高の確保と支払いの平準化を実現した。

問 防犯推進事業で、平成31年度見込予算額が270万円ほど増額となった理由は。

答 4月以降の防犯ネットワーク会議で、平成31年度の防犯カメラの設置場所・基数が最終決定した結果、増額となった。

問 設置したことによる効果は。

答 防犯カメラの設置は平成27年度から進めており、犯罪発生件数は年々減少しており、犯罪抑止に一定の効果があるものとする。防犯カメラの映像が犯罪の早期解決にも寄与しており、コスト以上の効果が期待できる。

問 防犯カメラの維持管理費と、今後の設置計画は。

答 1カ月の電気料金が約500円で、5年間程度で機器の更新が必要と試算。既存の道路照明のポールに設置する場合、約40万円から50万円。新たにポールを設置する場合で、約80万円から90万円。今後、整備計画を作成していきたい。